

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームベにばら ユニット2	評価実施年月日	平成22年1月9日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年1月18日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	法人理念、ケア理念にある、尊厳、自分らしく、ゆったりと暮らす、地域の方々と共に安らぎのある人生等、事業者独自の理念を作り上げている。		
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ケア理念にある地域とともにとあるように出来る限り、町内のイベント等には、参加して地域の方々との交流を深め、日々の散歩や買い物などでも顔なじみの関係になっていけるように取り組みをおこなっています。ケアに対しても、日々チームケアを大事にして、理念に添って取り組んでいる。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域の方々にも、協力を頂き、ご家族の方にも、お話しをするなど、理解をして頂けるような理念を念頭に置き、取り組みの中で浸透していけるように心掛けている。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	買い物や散歩等で、お会いした時は、挨拶は必ずするよう、日常心掛けて、気軽に近所の方に立ち寄っていただけるように日常的に繋がりをもてるようにお話しのなか「遊びにいらしてください」とはなしている。	○	散歩、買い物などで顔なじみにはなっているが、多くの方には立ち寄っては頂けていない為、こちらで企画をしていくなど考えていきたい
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内の行事等、イベントには、積極的に参加させて頂いています。町内会にも参加させて頂き、回覧板の閲覧など町内の行事、出来事などを入居者さんが把握出来るように取り組んでいます。		
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	これから、高齢の方が多くなり、地域でも、高齢化が進んでいく中で、地域の小学生が高齢の方の理解が出来るよう、施設での研修を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	改善に指摘された部分があれば、改善に向けて、今後どのように良いケアにつないでいくか、話し合い、職員全員が自己評価表を行い、改善していく内容の話し合いを行っている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	市町村担当者、町内会長、町民の代表、民生委員、家族の代表の方に現状のケア、利用者さんへのサービスの実践、評価を報告し、それぞれの方に意を伺ったり、課題を話し合ったりと取り組みサービスの向上に活かしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村とは、行事、イベントや現在の町での高齢者さんの人工推移、定期的な町の福祉事業所との会議など定期的に連携を図り、市町村と協力してサービスの向上に努めている。	○	町民の方に認知症の理解を深めていけるように、認知症サポーターなどの講演を行っていきたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	勉強会、スタッフ会議などで権利擁護、成年後見人制度について話し合いを行い、必要性のある入居者さんや、可能性のある入居者さんに対して活用、相談出来るように学ぶ機会を作っている。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	スタッフ一人ひとりが、虐待の知識を持ち、どういう事が虐待になるのかを研修、ミーティングで話し合い理解する事で、施設内においての虐待を見過ごされることのないようにスタッフ同士注意を払い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は、細心の注意を払い、契約の前に事前にしっかりと説明や見学、疑問、質問を入居者さん、ご家族より聞き、不安、心配がなく契約をしていただけるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	スタッフは日常の個々の入居者さんが話しやすい環境の中で、コミュニケーションを通して、不満や意志を話して頂けるよう、努めています。また、外部に第三者苦情窓口を置き、気軽に苦情を言えるような環境を作り、運営に反映させている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ご家族の面会、月に一度の家族へのお便り、ニュースレターを通して、近況報告はさせて頂いています。またその都度、特変や問題があった場合報告している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が、来訪された際、お電話いただいた際、ケアプラン説明時に意見、不満など話して頂けるよう、努めています。また、外部に第三者苦情窓口を置き、気軽に苦情を言えるような環境を作り、運営に反映させている際には、意見等ないか、表せる機会をつくり、気軽に話して頂けるようにしています。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の全体ミーティングとユニット会議や毎日の申し送り時など、スタッフの意見や提案を話し合いより良いケアを目指し反映させている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者さん状況の変化が起こった時は、柔軟に対応出来るよう勤務の調整を行えるように努め、急な職員が必要な際も、連絡網での呼びかけ等で職員の確保に努めている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	移動時は新しく入るスタッフと馴染みのスタッフと研修を行い、利用者さんが不安にならないよう配慮し、ダメージを最小限に抑え、馴染みの関係に近づいていけるように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人ひとりの段階に応じて、研修を受けて頂き、モチベーションの向上やトレーニングを行っている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修や地域交流の中で、他施設の方との自施設の見学や、実習の交流を持ち、また、地域の福祉関係者との定期的な会議の中でお互いのサービスの質の向上の取り組み、連携を図っている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	スタッフが、一人で悩み過ぎたり、考えすぎたりしないように話してもらえる様な機会を定期的に作り、ストレスの軽減になるよう、取り組んでいる。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	運営者は職員の個々の能力、実績に合わせ研修などに参加してもらい各自が向上心をもって働いていけるように配慮している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	施設見学や面談の際にご本人様より困っていることや不安なことを聞き、表情や状態も感じながらご本人様が利用に対し心配のないような配慮を行っている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族の思いを受け止め、よく傾聴し、不安に思っていることや求めていることなど受け止めていけるよう、しっかりと話し合いを行い安心して利用できるような努力を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談の際には、その時に必要だと思われる支援の内容を、ご本人、ご家族ともによく話し合い、困っている内容を考え他のサービスの利用も含め、話し合いを行い、対応してる。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人やご家族様と相談し、必要があれば午前中の利用や1泊のお試しの利用も行い自施設の雰囲気や1日の流れを感じていただき馴染んで不安や心配のないように入所出来るように配慮している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	毎日のコミュニケーションを大切に、介護する側、される側ではなく、常に人生の先輩であるという事を念頭に置きながら、過ごし、ともに楽しいこと悲しいこと、困っていることなどを共有できていける関係作りを築いていけるように配慮している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	施設における行事に、出来る限り、参加して頂いたり、入居者さんが不安なことや困っていることなどを連絡し職員と共に考えご協力頂いて、一丸となり、ご本人を支えている。	○	毎月の様子や表情をカメラに納めて数枚月に一度グループホームだより、ニュースレターと共に送付していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族とご本人様が相互にどのような関係かを入所前の相談や面談の際に理解し、その問題に対しお互いが歩み寄り、解決していける方法を職員と考え話し合い対応している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所前や昔住んでいた場所など、馴染みの場所にドライブや受診の際など定期的に行き、昔からの知人の方が気軽に来訪していただけるように話しをして関係が途切れない様に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者さん、一人ひとりの性格を把握し、レクリエーション等を通して、皆で、コミュニケーションを図りながら、利用者さん同士、関わり合い、支え合えるように努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用の契約が終了されても、継続的に面会に行かせていただいたり、ご家族様に様子を伺うなど付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式による入居者さん一人ひとりの状態や要望、願いを考え、ご家族の意見を元にご本人の思い、希望、意向の把握しご本人本位のケアがおこなっていただけるように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前の面談の中で、これまでのサービス利用の経過や馴染みの生活歴について、詳しく、把握し、変わらず自分らしく馴染みの生活を送っていただけるような支援に努めている。	○	馴染みの環境に元住まれていた場所があれば定期的にドライブに行き生き生きとしていただけるような支援を心がける。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者さんの一日の馴染みの生活を職員一人ひとり把握し、その生活に合わせてセンター方式により個々の有する能力を把握している。毎日にバイタルチェックや一人ひとりの心身状況を常に把握し、尊厳を大切にしながら、努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	センター方式による入居者さん一人ひとりの希望を大切にし、個別の利用者の情報交換をスタッフ間で行い、ご本人、ご家族の意見を反映しながら、本人らしくなっているような介護計画になっていける様、工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じて、定期的カンファレンスを行い、ご本人、ご家族の意見に応じ、状態に適した新たな計画を作成している。また見直し以前に状況に変化が合った場合はケアマネージャー、計画作成担当者、職員、ご家族、入居者さんとともに現状に即した介護計画になっていけるように努めている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子、ケア内容、バイタルサイン、食事の摂取量、水分摂取量、排泄などを個別に記録を取り、情報の中で、介護計画のお直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	要望に応じて、利用者さんのご家族との食事、外泊などにも、対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	定期的な消防訓練では、地域の消防に協力いただき、SOSネットワークでは、地域の警察所と連携を図り、音楽のボランティアの方々の協力や地域の小学生とはふれあう機会をつくり対応している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	定期的に地域のケアマネージャーや福祉事業所との連携を図り、入居者さんの希望や状態に合わせた要望がある際に速やかに対応出来るように支援している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括センターの方々と定期的に連携を図りその中で、現状の様子などお話しし、速やかに対応出来いけるよう協働し、入居者さんの希望があれば共に相談に行くなど対応出来るよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>希望のある、かかりつけ医があれば、関係が築いていけるよう、主治医に相談し、続いて、医療を受けて頂けるよう、支援している。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症に詳しい理解のある医師との関係を築き定期的に相談、助言を頂き、連携を図りながら、治療、診断を受けられるよう、支援している。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>定期的に医療連携をしている看護師や、当事業所の看護師との情報の交換にて、指示、アドバイスを頂き、健康管理を行っている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入居さんが入院された際は、早期退院を目指し、病院に必要な情報を提供し、定期的に他入居者さんのお見舞いやご家族からの情報のなかで病院との情報交換、</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>契約時や、入所されている際にご家族、ご本人より終末期の要望等をさりげなく聞き、ターミナルケアに活かし、主治医と相談し、職員一人ひとりがその要望に即したケアを行っていけるように努めている。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>終末期の際は、事業所全体のなかで対応のできる支援、出来ない支援を見極め、その対応を入居者さん、ご家族に説明し、主治医、看護師、職員がチームとなり今後についての対応に検討していけるように準備を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>別の居宅への移り込む際には、ご家族やご本人に関わるケア関係者との話し合いの機会を持ち、情報の共有を行い、住み替えのダメージを最小限に防ぎ、自分らしく馴染みの生活を新しい場所でも出来るように話し合いを行っている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者への言葉かけには、一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保に努めている。個人情報の取り扱いには、常に意識して管理している。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ケアを通じて、会話を大切にし、利用者の思いを自由に表せるように、言葉かけをしている。認知症の進行に伴い、判断能力が低下していても、表情や反応を受け止め、希望を把握しようとしている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりの生活のリズムや、その日の状態や希望にあった生活が送れるように、支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>訪問理容を利用している。方が多く、自分の希望に合ったヘアスタイルを説明出来るように、スタッフも一緒に相談している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>スーパーのチラシや料理番組を一緒に見たり、野菜を切ったり、盛り付け、米研ぎを手伝って下さっている。下膳、食器洗い、拭く、しまうなど、出来ることは利用者の状態に合わせて、一緒に行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	喫煙者はいない。飲酒は、花見などの行事の時に希望の利用者に提供している。本人の嗜好に合わせて、ジュースやコーヒー牛乳、こぶ茶等選択していただき、提供している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	トイレでの排泄を気持ちよく出来るように、生活時間や状況に合わせて、言葉かけ、介助を臨機応変に対応している。便秘の把握をして、食事や水分補給に気を配っている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	行事以外の日には毎日入浴出来るが、時間は職員のローテーションの都合で定めているが、ご本人の希望にあわせ、2日～3日に1回は入浴していただいている。無理強いせず、気持ちよく入浴出来るように支援している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ご本人の生活習慣に合わせた就寝時間で、ご本人の生活リズムで休息している。安心して眠れるように声かけをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりにあった役割を担い、日々の暮らしに張り合いがあるように興味を持って楽しんでいけるように、支援している。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人の希望に合わせて、個人で現金を所持している方もいて、ちょっとした買い物をしている。おこづかいとして、事務所で預り金があり、必要に応じて、使えるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は、近所に散歩や畑に行き、野菜を収穫したり、スタッフと一緒に買い物に出かけるなど、その日、その時に応じて、相談して決めている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ドライブに行ったり、希望に場所への外出は、積極的に行っている。ご家族の面会時に、気軽に外出や外泊をしていただいている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望に応じて、ホームの電話を活用していただいている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	本人の馴染みの人たちが、気軽に訪ねやすく居心地よく過ごせるように面会時間の制限なく、居室でゆっくり過ごしていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営者及び全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室や日中玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>利用者全体を常に見守り、察知するように心がけている。状況について、スタッフ同士で、報告し、共有している。記録も記載し、安全に配慮している。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>義歯洗浄剤は、ホームで保管、管理している。</p>		
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>インシデント・アクシデント(ヒヤリハット)報告書を作成し、事故が発生した場合は再発防止に取り組んでいる。一人ひとりのリスクや危険を検討し、事故防止に努めている。</p>		
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>利用者の身体状況の急変や事故発生時にも慌てず、確実かつ適切な行動がとれるようにしている。救命、救急講習を研修に取り入れている。</p>		
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>防火避難訓練を行い、いざという時に慌てず確実な避難誘導が出来るように年に1回行っている。</p>		
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>心身の状況や状態について、面接時や必要時に説明している。インシデント・アクシデント発生時はその詳細や様子についても説明を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	スタッフは一人ひとりの普段の様子をよく知っているため、体調の変化や異変の発見に努めている。気づいたら、看護師に対応等相談し、必要時は主治医へ受診する。毎日、バイタルを測定し、体調管理している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の情報をファイルに保管している。与薬チェック表で確認している。医療連携に詳しく書いている。内服の変更時も症状の変化の確認に努めている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食物繊維の多い食材の工夫をしている。便秘予防に運動や水分を、多くとっていくよう心がけている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人ひとりの口腔状態に応じ、歯みがき支援している。就寝時は義歯をはずし、ポリデントしている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食、食事量を確認し、記録している。摂取能力に応じ、刻み食等形態別に提供している。疾病や体重増加に応じて、量の加減をしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者、職員に手洗い、うがいの実施。家族・面会者へは玄関に消毒液を設置。塩素系洗剤で、手すり・椅子の消毒をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎晩、まな板・布巾の消毒をしている。食材は正味期限を確認し、冷蔵庫に保管している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には木で作った置き物やベンチや季節の花が楽しめるようにプランターを置いている。車椅子でも楽に通れるようにスロープになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールには、季節の飾り付けや植物や花を飾っている。不快な音や光がないよう配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールにテレビとソファがあり、日中は利用者が集まり、廊下と非常口の椅子に一人になれる居場所がある。居室に戻り、一人で過ごす時もある。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時、使い慣れたタンスや道具・仏壇等も持ち込んで頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度計・湿度計を設置し、冬は乾燥を防ぐ為、加湿器を設置し、居室には濡らしたバスタオルを干している。日中は空気の入換えをこまめにしている。トイレに消臭剤や消臭スプレーを配置している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ・廊下・玄関に手すりを設置している。玄関には、腰かけ椅子が設置されている。歩行が自立している利用者は、自立生活に努めている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレやお風呂場はわかりやすく名前をつけている。居室には、一人ひとり名前を大きく書いた紙を貼っている。わからない時は、案内し、サポートしている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前と非常口付近にプランターを設置し、外気浴を楽しんだり、ベンチに腰かけて、日光浴をしている。畑を作って、季節の野菜を育て、草とりや水やりをしている。収穫し、食材やおやつにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ②

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ③
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ②
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない ②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 毎日の入居者さん一人ひとりの馴染みの1日に配慮しながら、家庭的な日常の支援(掃除、洗濯、食事作りなど)を行いながら、レクリエーション、機能訓練を行い筋力低下を防ぐ様に努めています。地域との連携を図り、様々な行事に町の協力を得て積極的に参加され、地域の方々とのふれあいを大切にこれからも支援していきたいと思っております。